

テーマ 成年後見から学ぶ、これからの社会福祉士

活動先 NPO 法人 知多地域成年後見センター

1. 活動先紹介

NPO 法人知多地域成年後見センターは半田市と知多市の 2 つに事務所を構え、職員 4 人で運営されている。平成 20 年度に 5 市 5 町共同で、成年後見に関する相談窓口などの委託を受け、管内に住む者は相談全般無料で利用できるシステムになっている。又特色として被後見人に対して、適正な後見業務が行われるように、家庭裁判所への報告以外に組織独自の運営適正化委員会によって監査され不正を防ぐようになっている。第三者的立場からの意見を大切に、市町村からの補助金を最大限生かす工夫がなされている。成年後見の仕事は誰でも行えるが法律や人権に関わる問題のため、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会、精神保健福祉士協会などと連携し、解決に向けて支援しているのが特徴である。

知多地域成年後見センターでは大きく分けて 3 つの業務を行っている。

2. 法人後見

- ①財産保全に関する法律行為
- ②日常的な金銭管理出納
- ③居住の確保に伴う法律行為
- ④介護及び福祉サービス利用における契約行為
- ⑤受診・入院等の医療上の契約行為
- ⑥身上監護（定期的な訪問、見守り）など

3. 相談

- ①成年後見制度に関係する相談
- ②弁護士、司法書士などへのケース紹介
- ③関係機関とのカンファレンスへの参加（行政・医療・福祉・介護・法律等関係機関とのネットワークづくり）

4. 普及啓発

①一般市民の理解促進を目的としたイベント等の開催

②支援員等の養成を目的とした講座等の開催

(例：成年後見サポーター養成講座 「成年後見制度」の重要性を理解し、制度利用を地域で支えるサポーターを養成する講座の開催)

である。相談は後見事務所で予約して行うか、月1回巡回相談がある。

5. 当初の活動目的、目標

今回活動に参加した3人とも成年後見という言葉は聞いたことがあっても、どういった内容なのか全く分からない状態であった。そこで、「成年後見とは何か」という知識を身につけ、「私たちには何ができるか」ということを課題にして事前学習や現場へ行った。

6. 私達の活動内容

右も左もわからない世界だったので、成年後見について学ぶところから始めた。図書館で成年後見に関わる本や文献を読み、3人で内容から意見を討論した。知多地域成年後見センターで発行している書類に目を通し、分からないところを職員さんに聞いたりした。活動先ではセンター職員の方から依頼を受けた紙芝居・模造紙を作成した。これは高齢者や一般市民に向けて、成年後見を知ってもらうきっかけになればという思いで作成した。又、センターの業務としての民生委員への講演会に同行させていただいた。成年後見以外にもNPOの仕事として愛フェス知多地域ブロックでボランティアとして運営に携わったり、映画「降りてゆく生き方」を鑑賞し、成年後見以外にも貴重な勉強をさせていただいた。活動後の学習で成年後見の知識を身につけることで自分たちが何をできるかが課題になった。3人で討論することで、意見をぶつけ、共に学びあうという勉強をした。

7. 活動における、疑問、問題点

私達が活動させていただいた成年後見という事柄は、利用者のプライバシーにとっても踏み込まねばならなかった。人生経験もない私達はどこまで知っていいのかわからず、困惑した。学生の身分でどこまで知ってよいものかわ未だに結論は出ない。今回私達は実際に利用者にお会いすることはなかったが、自宅を見たりお話ししたりすれば更に学びたいことが増えたかもしれない。

8. サービスラーニングを通じて学んだこと、理解したこと、成長したこと

前にも述べたが、私達は成年後見について学ぶところから始めた。無知であったからこそ吸収できたこともあり、今回の紙芝居につながったと思う。高齢者でも分かる紙芝居を作るということは、まず自分たちが成年後見について分かっていないと作成できないものであり、誰でも分かる表現や言い回しなどを考えなければならなかった。これはひとりだけの考えではできず、グループみんなで話し合うことで解決していった。

成年後見はまだまだ一般市民に定着している言葉ではない。しかし誰かが知っていてふとしたときに思い出せば誰かが助かる。知多地域成年後見センターでは日々の多忙な業務をこなしつつ、啓発運動を定期的に様々な形で行っていた。今回学んだことを身近なところから広めていくのが私達にできることだと考える。

私達3人が一緒になって1年間学習を続けてこれたのは、ゼロから今まで共に学びあってきたからである。何も分からない状態から試行錯誤をして、時には激しい討論になったり自分の考えを主張したりもしたが、今までグループワークをしたことのない私達にとっていい刺激になった。それと同時に自分の考えを伝えることの難しさ、伝わった時の嬉しさ、一丸となって物事に取り組む貪欲な気持ちなどサービスラーニングならではの学びがあった。

9. グループ研究の成果を踏まえて今後の学びにどう活かすかの抱負

私達が今回の活動で身に付けたことは成年後見に関わる知識である。この知識は私達が将来的に目標とする社会福祉士の仕事に直結する。知多地域成年後見センターの職員は社会福祉士を必ず持たねば仕事ができないというわけではないが、持って良いに越したことはない。3人とも将来は施設なりの福祉の現場に関わる仕事に就くことを希望しているため、これからの専門演習での学習や就職してからの現場で広めて実行していくことが大切だと考える。

10. 活動の提案

今回学ばせていただいたことは若い私達でも関係ない事柄ではなかった。自分だけでなく家族や親せきにも活かせることであった。若い人への啓発を(例えば大学など)していくと社会福祉を学ぶ私達にはとても良いと思う。又、現在のセンターの規模では新規の利用者が受けづらいという問題点がある。センターの規模を大きくすることで知多半島2ヶ所という広い範囲の事務所よりもっと地域に密着した活動が行えるのではないかと思う。

11. 地域活動から学んだ地域福祉、私達、私の想い、考え方

今回サービスラーニングで学んだことは「人とのつながり」である。地域福祉を学習するにあたって本などで学習するより、実際に地域に出てみて活動するほうが断然勉強になった。自分の足で学び、話し、感じることで、得た体験は言葉にできないものである。

地域には様々な人が住んでいる。ひとりひとりが市民であり、様々な問題を抱えている。それを解決するには、個人の努力以外に住民(市民)同士の助け合いや、行政や NPO などの団体との連携が必要である。その一片を今回自分の目で確かめられてことをとても感謝したい。

今回お忙しい中私達を受け入れてくださった事務局長今井友乃さんをはじめとする半田後見事務所の職員の方に厚く御礼申し上げます。